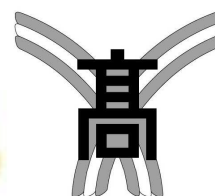


AL道中膝栗毛



【指導案の作成と授業観察をお願いします】

年末が近づいてきました。授業観察月間は終了しましたが、まだ指導案の作成と授業実践を行っていない先生は、1月末までに実施してください。また、実施される場合には以下の点に留意してください。



- ①本時の目標は「全員が…できる」という表現にする。
- ②指導案を作成し、職員朝礼で配付する。
- ③配付する日の職員朝礼レジュメに、実施場所やクラスを記載する。
- ④指導案のデータは、所定の場所(下)に格納する。

d ¥ 分掌など ¥ 学力向上推進委員会 ¥ ★★先生方へ 指導案の作成について ¥ ★★★ 提出用フォルダ
授業観察カードの提出もお願いします。一人4枚が目安です。ご多用のなか、ご無理を申し上げますがよろしくお願いたします。

【ラウンドロビンという手法】

公開授業研究会では、岡山大学の高旗先生にご講演をいただきました。要点の一つは「分かったフリをさせない授業づくり」であったと思います。

「わからない」＝「はずかしい」→「わかったフリをして、わからない自分を隠す」

こういった流れから生徒を解放するためには、「人間関係の支えのもとに、わからないと言える状況を作り出すこと」と「何がわからないのか、わからないなりに表現させる」ことが必要だとも述べられました。

しかし、せっかくグループを作って発言させても「特にない」と言ったり「〇〇君と同じ」と言ったりして表現しないことが少なくありません。こういった状況において有効な手段の一つが「ラウンドロビン」と呼ばれる方法です。協同学習ワークショップで紹介されたもので、一般には「4人～6人組で順にアイデアや意見を述べていくもので、ブレインストーミングの簡易版」と説明されています。

グループ学習のポイントの一つは同時性(＝同時に多くの生徒に活動させる)と平等性(＝1人が話す時間を平等に配分するなど、同じくらい参加させる)です。そのためには、「全員が、順番に話す」「人と同じ意見であっても自分の言葉で説明する」というルールを教室で周知しておくことが大切です。



「同じ意見でも自分の言葉で」がポイントです。ここでは「〇〇君と同じ」という逃げは使えませんし、他人の意見への「ただ乗り」は格段に減ります。何より「同じように見えた意見の微妙なズレ」が課題の核心を突くことも少なくないように思います。グループ内で意見を言わせるときに、ちょっと取り入れてみてはいかがでしょうか。